



## 大谷 順子

おおたに じゅんこ

大阪大学人間科学研究科グローバル人間学専攻 准教授  
(九州大学アジア総合政策センター協力教員兼任)

**略歴** … 大阪大学歯学部卒業、米国ハーバード大学大学院国際保健・人口学修士課程・英国ロンドン大学大学院社会政策博士課程修了、世界銀行保健人口スペシャリスト\*、世界保健機関(WHO)中国代表事務所医学官員\*、九州大学大学院言語文化研究院および人間環境学府准教授を経て現職 \*いずれも日本人初

# 素晴らしい世界を体験できる機会を掴もう！

情熱の赴くまま、好きなことを見つけて伸ばそう。

両親は女の子でも好きなだけ勉強をさせてくれました。国際学会に行ったり留学生を受け入れたりということが日常的な家庭環境で育ちました。自分も何か専門を持って国際的な仕事がしたいと漠然と考えていました。医師である父の働きぶりを見て、また病死した家族の側に立つ経験があったことから、女性が家庭を持ちながら重病の患者さんを持つような責任を負うことは難しいとも考えました。体育会のテニス部で練習とバイトに励む普通の学生時代でしたが、一方で、バングラデシュの村の孤児院でボランティア活動、ネパールの村での診療隊に参加、英語やフランス語の語学留学、タイのマヒドン大学で社会開発と公衆衛生での留学と海外での経験を積んでいきました。そうしているうちに、国際保健という医学と社会科学とが融合した専門分野があることがわかり、それを学ぶために留学準備をはじめました。卒後の入局先を決めるには男女差別が横行していた時代で、阪大に残っても将来にあまり希望を持てる状況でもありませんでした。

未知の世界にワクワクしながら道を切り開く

留学での学びは苦勞しながらも、こんなに自分にぴったりの分野があったのかととてもワクワクするものでした。世界中から集まる様々な経験を持つ、自分の国をそして世界を良くしようとする優秀な広い年齢層の若者たちとともに学ぶことで大きな影響を受けました。その後のキャリアは綱渡りのようなものでしたが、院生のうちからハーバード国際エイズ政策センターの Research Assistant(RA) などで働いたお陰で、米国連邦政府疾病管理予防センター(CDC)のインターンを経て、世界銀行、世界保健機関(WHO)という国際機関に就職し国際保健のキャリアを積む機会を得、幸運にも道が開けてきました。いろいろな人々からアドバイスを受け感謝しています。そのことについては、九大アジア叢書 8巻「国際保健政策からみた中国」(九州大学出版会、2007年)としてまとめる機会を得たので、そちらを手にとって見てもらえれば幸いです。九大赴任後も、中国や中央アジア諸国といったシルクロード地域での調査研究(九州大学教育研究プログラム・研究拠点プロジェクト(P&P)代表)をすすめ、英国、米国、南アフリカ共和国などの国際学会での発表の機会があり、ワクワク楽しくとても充実しています。



シルクロード地域の地図を見ながら、シルクロード地域からの留学生たちと講論風景



世界銀行の貧困村医療費援助プロジェクトの評価ミッションで中国陝西省の村の病院視察(2000年1月)

言葉は窓です。国際語とアジアの言葉を学びましょう。

皆さんの時代はアジアと真剣に深く付き合っていく時代です。国際語としての英語は大事ですが、英語だけですますという時代ではありません。国際語は英語だけではありません。国連公用語は他にフランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、アラビア語がありますがどれも大事です。私は英語、フランス語と中国語を学びましたが、どれもとても楽しく引き込まれました。特にお勧めしたいのは、英語とその他に、中国語でも韓国語でも他の言葉でもよいからアジアの言葉を1つは習得されることです。言葉は窓です。言語の習得を通してあなたの世界も見方も開眼します。また若いあなたの将来に掴むことのできる様々なチャンスが窓が大きく開かれることでしょう。そして、21世紀のアジアと、またヨーロッパ、アメリカ、アフリカなどさらに広い世界からの視点を学び、ともに考え、自らアクションを起こし、世界の平和と繁栄を創りだしていく人材となってください。



九州大学大学院法学研究院における英語による修士課程CSPAのゼミクラス "International Health and Welfare in Social Development" において(2007年11月)



九州大学  
KYUSHU UNIVERSITY

# 科学の未来は女性が拓くⅢ

2009.FEBRUARY



平成19年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業



振興調整費